

オーライ！ニッポンシンポジウム



日 時=平成27年2月26日(木) 13:30 ~ 17:00

(13:00 開場) 会 場=TKP東京駅大手町カンファレンスセンター
東京都千代田区大手町1-8-1KDDI大手町ビル22階

入 場=無料／定員120名 [事前参加申込が必要です]

(一財)都市農山漁村交流活性化機構事務局宛てに電子メールohrai@kouryu.or.jp または
FAX 03-5256-5211にてお申込下さい。(定員になり次第締め切ります。)



集めるから集まるに。いま話題の
都市農村交流型ソーシャルビジネス

社会課題を事業展開により解決に導いていくというソーシャルビジネスが世界的な潮流として広がっています。また、多くの都会の若者などが参加する都市農村交流のソーシャルビジネスが注目されています。都市における優れた人材や知縁を取り入れた都市農村交流ソーシャルビジネスのトップランナーの取り組みを紹介しつつ、住民主体の協議会やNPO等が地域資源を活用して展開する都市農村交流事業との新たな連携など今後の都市農村交流型ソーシャルビジネスの輪を広げたいと思います。

プログラム

1. 開演 13:30

2. 基調講演

『「人からはじまる社会の活性化」農山漁村の人、仕事、社会の育成を考える』（仮題）

一般社団法人社会人材学舎代表理事、明治大学大学院教授 野田 稔 氏

人口が3分の1になることが予測される日本は、人材を活かし、動かすことで社会を変える必要がある。大企業からNPOへ、或いは農業や介護の現場へと。人材の適材適所で、皆が生き活きと働く『幸せな社会』とは。

3. 事例発表

・農業生産法人 株式会社 hototo 代表取締役 水上 篤 氏（山梨市）

（農村へ帰郷し 農業体験から農業の実践者を増やす就農スクールを行いつつ、ブドウ農家としての品質向上と、農業を核とした「農から新しい未来の価値を創造する事業」を展開中。第11回オーライ！ニッポン大賞受賞）

・株式会社地元カンパニー 代表取締役 児玉 光史 氏

（都会に住む農家の息子や娘が実家に持つ後ろめたさを解決し、そして地元の活性化を促したいという、農家の息子や娘による地元活性化プロジェクト「セガレ・セガール」をはじめ、地元に若者とお金を探し込むをテーマに活動中）

・一般社団法人リディラバ代表理事/株式会社Ridilover代表取締役 安部 敏樹 氏

（社会への無関心を打破すべく、あらゆる社会問題への関心を高めるために60以上のスタディーツアーや都立中学の修学旅行などを実施、社会課題を可視化とソーシャルビジネス起業家との連携を促進中。）

4. パネルディスカッション『地縁、知縁、支援で日本と農山漁村の未来を拓く』

・コーディネーター：独立行政法人徳山工業高等専門学校 教授 熊野 稔 氏

（地域都市計画から、グリーン・ツーリズム、まちづくり、廃校利用、道の駅、農村と大学等の連携、援農ボランティア、プロボノ、CSR（1社1村運動等）等々の地域活性化推進手法に精通しています）

・パネリスト：水上 篤 氏、安部 敏樹 氏

5. 閉会 17:00

お申込み方法

下記の申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXでお申込み下さい。なお、メールでお申込みになる場合は、「お名前」「所属」「電話番号」「FAX番号」をご記入頂き、「シンポジウム申込み」とタイトルをつけて、事務局のメールアドレスまでお申込み下さい。

参加申込書

FAX 03-5256-5211

(一財)都市農山漁村交流活性化機構 地域活性化チーム 行

送信日：平成27年 月 日

オーライ！ニッポンシンポジウム参加申込書

都道府県名・企業名・団体名：

氏名（ふりがな）	所属・役職	ご連絡先（TEL/FAX） e-mail

*個人でお申込みの場合は、「所属・役職」へのご記入は結構です。

(参考)オーライ！ニッポンシンポジウム 出演予定者のご紹介

野田 稔（のだ・みのる）氏 略歴

＜社会人材学舎＞代表理事、明治大学大学院教授

1957年6月18日生まれ。日本の経営学者。明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授、リクルートワークス研究所特任研究顧問。

専門は、組織論、経営戦略論、ミーティングマネージメントなど。

【社会人材学舎の成り立ち】

2013年9月に、司法試験合格者を育ててきた弁護士で「伊藤塾」の塾長、伊藤真氏と共同で一般社団法人「社会人材学舎」を設立し、「社会人材」の育成に乗り出しました。「社会人材」＝「自分の本来の力を発揮し、世の中に役立てようとする人材」です。そして、「社会人材学舎」は、自分を磨き、自分を活かす道を見つける場です。

【日本の中長期の“有事”】400年スパンの日本的人口動向で見ると、1900年の「坂の上の雲」を目指した時代から我が国の人囗がここ100年で3倍にも増加し、経済も発展しました。しかし、今後100年で日本的人口は3分の1になることが予測されています。もし、1億人程度の人口を維持しようとするなら、2100年には日本は4700万人の日本人と、5300万人の新日本人（移民）の暮らす、“内なる国際化”的進んだ国にならなければならない。もしくは、4700万人（現在の韓国5000万人）とほぼ同じような大きさ）でも成り立つような新たな国の人材を模索する必要があります。みんなが働いて、みんなが価値を出す国にしていくことです。「個の幸せ」と、「企業活性化」・「社会活性化」の社会的均衡点を模索し、動的安定社会をつくる必要があります。企業は利益を最大目的にする時代ではない。企業は、イノベーション目的病にかかっていて、バブル時代の50代が正社員の半分を占めるいびつな構成になっており、沈滞しています。人材のリストラではなく、人材を活かし、動かすことによって社会のリストラクチャリングを推進する。大企業からベンチャー企業へ、NPOやNGO等の団体へ、或いは農業や介護の現場へ。社会全体での終身雇用と、人材の適材適所の実現を通して、皆が生き生きと働く『幸せな社会』へ動き出しましょう。



(参考)オーライ！ニッポンシンポジウム 出演予定者のご紹介

安部 敏樹 氏 略歴

一般社団法人リディラバ代表理事/株式会社 Ridilover 代表取締役

東京大学大学院博士課程1年 総合文化研究科広域科学専攻(専門は複雑系)。誰もが社会問題をツアーリーにして発信・共有するプラットフォーム『リディラバ』を2009年大学3年時に設立した。学生や若手社会人を中心にツアーメンバーが約2000名を数える。これまで60以上の社会問題のツアーや都立中学の修学旅行などを実施し、また2012年より東京大学教養学部にて1・2年生向けに社会起業を教える。



学生起業家選手権優勝、ビジコン奈良ベンチャー部門トップ賞、起業家甲子園優勝、KDDI∞ラボ最優秀賞、など受賞多数。スタディツアーや修学旅行に加え、誰でも社会問題を投稿できるwebサービスTRAPRO等を通じ、誰もが社会問題に触れやすく、また発信しやすい環境の整備を目指している。一般社団法人リディラバとは、「社会への無関心の打破」を理念とし、あらゆる社会問題への関心を高める為のスタディツアーや修学旅行の提供や、社会問題を誰もが投稿できるwebメディアTRAPROの運営を行っています。数多くのNPOや社会的事業を行う起業家たちと連携しながら、社会問題の可視化と解決を目指します。

一般社団法人リディラバ：<http://ridilover.jp/>

TRAPRO：<http://www.trapro.jp/>

Travel The Problem：<https://traveltheproblem.com/>

児玉 光史 氏 略歴

株式会社地元カンパニー代表取締役。

1979年、長野県上田市旧武石村のアスパラ農家に生まれる。東京大学農学部卒業。2007年に農家の息子や娘による地元活性化プロジェクト「セガレ・セガール」を開始。2012年株式会社地元カンパニーを設立。「郷土愛をカタチにして欲しい！」そんな想いで全国の地元を盛り上げるべく様々な事業を立ち上げている。「セガレ・セガール」という、なんとも楽しい響きの事業を運営している株式会社地元カンパニー。都会に住む農家の息子や娘が実家に持つ後ろめたさを解決し、そして地元の活性化を促したい。楽しげな響きの裏には素朴で純粋な想いがあった。悩みを相談する場所さえなかった農家の息子や娘達を「セガレ・セガール」と名付け、「実家孝行」「地元孝行」という新たな意識を確立させた株式会社地元カンパニーを2012年4月6日設立した。今一番に叶えたい夢は地元の特産品を友人や親戚に贈れるカタログギフト、「地元のギフト」を全国の1742市区町村で行なうということ。町や村が長い間投資して育てた学生達が皆都会に出てしまい、経済的に活性化が難しくなってきているが、それをなんとか解決したい、というのが児玉さんの今の想いです。



『地元カンパニー』HP→<http://www.jimo.co.jp/company/>

『地元のギフト』HP→<http://gift.jimo.co.jp/>

(参考)オーライ！ニッポンシンポジウム 出演予定者のご紹介

水上篤（みずかみあつし）氏 略歴

農業生産法人 株式会社 hototo の代表取締役

<http://hototo.jp/>

平成 25 年度第 11 回オーライ！ニッポン大賞を受賞した山梨県山梨市の「農業生産法人 株式会社



hototo の代表取締役水上篤（みずかみあつし）氏は、「農から新しい未来の価値を創造する事業」を展開しています。ニューヨークで遭遇した農と接する新たなライフスタイル「リトリート」に衝撃を受けて、自分の故郷である山梨県に戻り、農山漁村を舞台に新たな「挑戦」を続けています。

水上さんは、「農業法人 株式会社 hototo」で、農業体験から農業の実践者を増やす就農スクールを行いつつ、ブドウ農家としての品質向上と、農業を核とした 6 次産業化を展開しています。

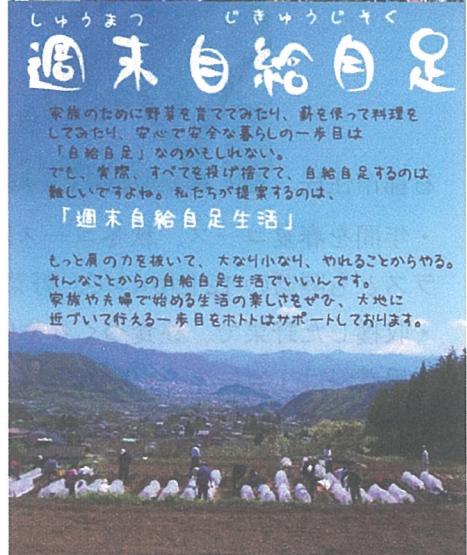
- ・スタートは週末農業スクール
- ・週末自給自足生活
- ・地域との関わり
- ・越冬イチゴ
- ・保険農園ホテル フフ山梨
- ・授産施設との連携
- ・hototo が目指す循環型農業

農業生産法人 株式会社 hototo（山梨県山梨市）

- ・活動年数：5 年。
- ・活動日数：年間 240 日
- ・活動エリア：山梨市牧丘町
- ・年間の参加者数：農業実践スクール 80 人、体験

3,200 人

- ・「ホトト」とは、残念なとき、ため息をつくときに口にしてしまう「トホホ」を反対から読み、言いやくすく「ホトト」にしたという。もっと元気な、嬉しい生活を創造できるようにとの願いを込めている。
- ・代表取締役の水上篤（みずかみあつし）氏は、建築や家具のデザインの仕事でニューヨークに暮らしていた時、「リトリート」というライフスタイルに遭遇した。週末にビジネスマンや大富豪が田舎で過ごし、土いじりに興じ、収穫に歓声を上げ、様々な立場の人々が農作業を通じてコミュニケーションを楽しむ。そんな光景を目の当たりにし、人間らしい生活や自分にとっての幸せが故郷の風景や農業にあると気づき、2008 年、12 年ぶりに故郷に戻り、実家のぶどう栽培を引き継ぎながら週末農業スクールを始めた。
- ・ほ場は、耕作放棄地を家族とスタッフで除草・抜根・整地した。持続可能な農業を目指して農産物残渣、生ゴミ、生活排水を微生物で活性化させた液肥や堆肥を多用している。
- ・週末農業コースの対象は、将来農業を始めたい、あるいは都会に住みながら農業もしてみたいと考え



(参考)オーライ！ニッポンシンポジウム 出演予定者のご紹介



る都市住民。

- ・年間を春夏コース、秋冬コースに区分し、さらに土曜日クラスと日曜日クラスを設け、各コース・クラスとも隔週の12回かけて、野菜作り等を勉強していく。
- ・収穫した野菜で、昼食づくりや保存食づくりも行える。
- ・授業料は1コース96,000円、次の時期に継続する場合は40,000円。
- ・卒業生は「ホトトクルー」という組織を参加し、新年会などの交流プログラムに参加できる。
- ・活動開始から5年間で、参加者数は農業体験で延べ12,000人、スクールは17期で延べ400人を超えた(2013年7月時点)。本格的な就農を目指して年間農業スクールを受講し、実際に就農した受講者も15名に達した。
- ・「ホトト」は農から新しい未来の価値を創造する事業を行うが、「トホホ」にならない事業であれば、積極的にチャレンジし、社会に貢献していきたいと考えている。
- ・新たな挑戦として、①無加温と無農薬を特徴とする「越冬イチゴ」(JAS有機認証申請中)の栽培技術の確立、②昨年(2012年)地区内に開業した、心と体の健康向上を目指したリゾート施設「保健農園ホテル フフ山梨」の運営参画(地場産農産物を利用した食事や農作業体験の提供)、③県内の授産施設と連携し、ホトトや地域内で生産される果実を用いたタルトの製造・販売、等にも取り組んでいるなど。農業ビジネスの旗手として注目されています。

参考

スマホが日本農業を救う <http://ascii.jp/elem/000/000/935/935811/>

(参考)オーライ！ニッポンシンポジウム 出演予定者のご紹介

熊野 稔（くまの みのる）氏

独立行政法人 国立高等専門学校機構

徳山工業高等専門学校 教授

土木建築工学科/環境建設専攻科 教授

工学博士/ 技術士(建設部門) /一級建築士

kumano@tokuyama.ac.jp

電話：0834-29-6333 Fax : 0834-29-6333



地域都市計画・都市再開発・都市環境論・まちづくり村おこし論・農山漁村計画・観光まちづくり・観光計画・温泉街活性化・建築計画設計を専門としています。技術士（建設部門 都市及び地方計画）として計画報告書を作成し、一級建築士として建築物の計画も可能です。教育・研究はもとより、地域共同研究、产学協同、地域貢献活動におかげさまで多くの実績があり、熱意を持っております。地方自治体や企業の皆様など日頃から親しくして頂いている多くのご縁に厚く感謝いたしております。

「経歴」

国立 豊橋技術科学大学工学部建設工学課程卒業（昭和 56 年）

同大学院地域都市計画研究室を経て昭和 57 年に徳山高専に勤務。

広島大学大学院工学研究院非常勤講師(技術戦略論；「都市の技術戦略論；

コンパクトシティ政策と低炭素まちづくり戦略について」

「地方創生の技術戦略論；道の駅と地域振興について」)平成 26 年

豊橋技術科学大学大学院建築都市システム学系(スマートシティ・スマートウェルネス住宅について)

講演歴任

山口大学工学部非常勤講師（地域都市計画学）歴任

下関市立大学経済学部非常勤講師（都市環境学）歴任

熊野研究室出身卒業生 100 人超。公務員、ゼネコン、コンサル、高専教員など博士、技術士、一級建築士等の資格を取得して活躍中。

熊野先生の発表には、

「外部支援による農山漁村のサステナビリティに関する事例と一考察」……スローツーリズム、農村と大学等の連携、援農ボランティア、WWOOF、プロボノ、CSR（1 社 1 村運動等）等の都市と農山漁村の共生・対流の取組について……

「全国における多様な廃校活用の取り組みと方向性」（廃校活用は、今や日本全国の文化であり、地域おこしの起爆剤である）第一回全国廃校フォーラム 24 年 2 月 1 日

「一社一村運動の動向と評価及び方向性に関する研究」一社一村しづおか運動の調査を通して等があります。熊野先生は、日本建築学会 農村計画委員会 農山漁村地域組織小委員会の主査として、少子高齢化時代における農山漁村地域をフィールドとし、住民主体の地域組織を研究対象としつつ、コミュニティ計画・地域経営計画の観点から持続的な農山漁村居住環境と再生のあり方に関する調査研究を主導しています。

